

## 第14回東アジアサミットエネルギー大臣会合における大臣共同声明(仮訳)

2020年11月20日

### “持続可能な発展に向けたエネルギー転換”

- 1 第14回東アジアサミットエネルギー大臣会合(第14回EAS EMM)が、2020年11月20日、ベトナムのホストによりバーチャル形式で開催された。会合では、ベトナムのDan Hoang An(ダン・ホアン・アン)商工副大臣が議長を務めた。EAS参加国、すなわちASEAN加盟国、オーストラリア、中国、インド、日本、韓国、ニュージーランド、ロシア、及び米国のエネルギーを担当する大臣と政府高官が会合に出席した。また、ASEAN事務局長も出席した。

### パンデミックと持続可能な回復に向けたエネルギーセクターの対応

- 2 EAS地域のエネルギーセクターは、短期的にも中期的にもコロナの感染拡大による甚大な影響を受けており、今後もその影響を受けることを認識し、EASエネルギー大臣と国際エネルギー機関(IEA)、国際再生可能エネルギー機関(IRENA)、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)を含む国際機関の間で、パンデミックへの対応と持続可能な復興への貢献について議論するための特別セッションが開催された。各国大臣は、経済回復の達成と温室効果ガス排出量の削減のため、現実的、実効的かつ持続可能なエネルギー政策を追求する必要性を認識した。各国大臣は、すべてのエネルギー源、すべての技術の活用を含めた、経済活動や日常生活を支える安定供給の確保と低廉でクリーンなエネルギーの重要性を、コロナの感染拡大下に再確認した。
- 3 各国大臣は、2020年11月に開催された第15回東アジアサミットにおいて首脳らが再確認したように、EASにおけるASEANの中心的な役割と、進化するASEANを中心とした地域アーキテクチャの不可欠な構成要素としてEASを推進し続けるというASEANのコミットメントを認識した。このことを念頭に置き、EAS各国大臣はASEAN地域のエネルギー転換を加速し、今後5年間のより大きなイノベーションと協力を通じてエネルギー強靱化を強化することを目的とした、新たに採択されたASEANエネルギー協力行動計画(APAEC)フェーズ2:2021-2025に向けた、ASEAN上級行政官とそのサブセクター組織及びエネルギー専門機関を称賛した。

### 持続可能なエネルギーの未来に向けた継続的な取組

- 4 各国大臣は、持続可能なエネルギーの将来に向けたEASエネルギー協力を促進するためのEASエネルギー協カタスクフォース(ECTF)による継続的な努力を歓迎した。各国大臣は、ECTFの3つのワークストリームや、水素社会・運輸部門の脱炭素化、天然ガス、及び二酸化炭素回収・利用・貯蔵(CCUS)の推進を含むその他のイニシアティブの下での具体的な取り組みの実施に満足している。各国大臣は、APAECフェーズ2:2021-2025と並行して、上級政策決定レベルと研究・実務レベルの双方において、知識と経験、革新的なソリューション及び最良事例をより効果的に利用し、EAS各国間のイノベーションを拡大できるよう、EASエネルギー協力が更に強化されることへの期待を表明した。
- 5 省エネルギー(EE&C)ワークストリームにおいて、各国大臣は、分散型エネルギーシステム(DES)、省エネルギーポテンシャル、及びEAS参加国の省エネルギー(EE)技術を促進するためのロードマップ策定、これらのイニシアティブの下で実施された活動の進捗状況に留意した。特に、各国大臣は、小型発電やスマートグリッド技術の利用可能性の増加に対応するための重要な政策オプションとして分散型電源システムについて、日本がフィリピンのタブラス島で実施した第3回エネルギー監査の成功に留意した。各国大臣はまた、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)が作成した、2050年までに必要なエネルギー投資の分析を網羅したEASエネルギー展望2019/2020の発表にも留意した。各国大臣は、一部のEAS諸国で実施されている再生可能エネルギーによる電力供給のシェア向上のための支払意思額に係る消費者調査の結果に期待しており、ベトナムではすでにフェーズ1が開始されている。
- 6 各国大臣は、2020/2021年のEE&C作業計画には、特に以下の実施が含まれると指摘した。
  - (i) 関心のあるASEAN諸国のエネルギー監査の次回ラウンド、
  - (ii) COVID-19がエネルギー需要と供給に与える影響の分析、
  - (iii) 2020年から2023年までのEAS諸国の経済成長率のレビュー、
  - (iv) マレーシア、フィリピン、タイの追加のASEAN3か国の消費者に特に焦点をあてた支払意思額調査の第2フェーズの実施。
- 7 輸送用およびその他の目的のためのバイオ燃料(BTOP)ワークストリームについて、各国大臣は、EAS参加国におけるモビリティ電動化及び代替バイオ燃料導入によるCO2排出量削減を評価するための共同研究が完了したことに留意した。本研究の提言を検証するために、インド、インドネシア、タイの政府関係者と産業界の代表者が参加する政策対話が実施された。各国大臣は、2021年から2024年の間、バイオ燃料やその他の代替自動車燃料の持続可能な利用を検証するEASの将来のモビリティ燃料シナリオの分析に関する調査を実施する計画に言及した。
- 8 再生可能および代替エネルギー発電について、各国大臣は、2020年7月に開催された、風力発電プロジェクトと政策の開発、風力発電産業と技術に関するセッションを含む、エネルギ

一転換に向けた風力発電に関するウェビナーの成功、また、再生可能エネルギーの高いシェア、ダム の安全保障、水力発電の開発を通じたグリーン成長の新しいトピックを含む第5回EASクリーンエネルギーフォーラムの開催計画を歓迎した。各国大臣はさらに、このワークス トリームの下で2つの事前実現可能性調査が実施されていることに言及した。1つは2019年 11月にマレーシアで締結された太陽光発電および蓄電システム(PV+ESS)に関するものであ り、もう1つは2020年4月からブルネイ・ダルサラームで進行中の風力発電に関するものであ る。

## 革新的技術と低炭素社会の促進

9 各国大臣は、EAS地域の低炭素社会を促進するために、水素と運輸部門の脱炭素化技術 の開発を継続的に提唱している日本に対して感謝の意を表明した。水素利用の促進につい て、各国大臣は、日ASEAN協力の下で実施している研究プロジェクトであるASEAN諸国にお ける電動車政策「Well to Wheel」の影響に関する計画に言及した。各国大臣はまた、2020年 10月14日にバーチャル形式で開催された水素閣僚会議2020にも言及した。

10 各大臣は、エネルギー安全保障を改善しつつ、地域の低炭素化への移行に資する天然 ガスとクリーンコール技術の継続的な役割を認識し、資金を動員することの重要性を強調し た。

11 各国大臣は、地域におけるLNG市場を支援するため、液化天然ガス(LNG)の利用、またイ ンフラ開発の促進の重要性を再確認した。各国大臣は、LNGバリューチェーンにおけるキャ パシティビルディング、LNGインフラ及び関連サービスにおける資金調達メカニズム、及び仕 向地規制緩和のための条件整備の観点から、日米がEAS加盟国を支援していることを認め た。各国大臣は、2020年10月12日のLNG産消会議2020のオンライン開催について留意した。

12 カーボンリサイクル促進イニシアティブにおいて、各国大臣は、脱炭素化、回復、及び経 済成長の目標に資する二酸化炭素回収・利用・貯蔵(CCUS)とカーボンリサイクルの重要性 に留意した。各国大臣は、EAS地域における知識・経験の共有と研究活動の実施に資する パートナーシップの実現が期待される「アジアCCUSネットワーク」の構築に向けて、日本と ERIAが主導している協力を歓迎した。

13 各国大臣は、第13回シンガポール国際エネルギー週間でシンガポールと米国の共催で 初めて開催したASEAN-USエネルギー貯蔵フォーラムを歓迎した。これは、この地域のエネ ルギー貯蔵システムに関する協力を深め、再生可能エネルギーの導入を強化するためのフ ォーラムである。

14 各国大臣は、2019年～2021年のEAS中期エネルギー政策研究に関する3年間のロードマップの実施状況に留意し、EASエネルギー協力プラットフォームの下でのエネルギー政策研究活動に向けたERIAの貢献を賞賛した。各国大臣は、2020年11月17日にERIAとベトナムが主催したCCUSに焦点を当てた第3回東アジアエネルギーフォーラム(EAEF3)が成功裏に終了したことを歓迎し、「第3回東アジアエネルギーフォーラム(EAEF3)を踏まえた省察」に留意した。

15 各国大臣は、2021年にブルネイ・ダルサラームで開催される次回のEASエネルギー大臣会合に期待を表明した。

EAS参加国の代表団、ASEAN事務局、及びASEANエネルギーセンターは、バーチャル会議を主催してくれたベトナム政府と国民に感謝の意を表した。